

ロボット博士の創造への扉

デザインスゴロク—その2

—自動車対鉄道論議への応用を例に—

第30回

もり まさひろ
森 政弘

前回では、「デザインスゴロク」というものについて、その起源とロボコンへの応用をお話して、導入としました。今回はさらなる応用例として、車社会といわれるまでに爛熟した自動車交通というものが他の交通といかに質的に異なったものであるかを、デザインスゴロクでシステムティックにきれいに整理して明らかにしてみたいと思います。

1 自動車と鉄道の優劣論議

今日ではあまり議論されませんが、30年ほど昔には、自動車 とくに乗用車 の是非論が盛んだった時代がありました。そのときマスメディアの中には、公害と交通事故を主たる理由にして、自動車悪玉論をぶち上げたところもありました。また、主催が機械関係の学会だったと記憶していますが、交通は、自動車などよりも、公害も少なく走行抵抗が小さく効率も良い鉄道を主とすべきだとの観点から、自動車と鉄道の優劣を議論するシンポジウムも開かれました。言葉が過ぎるかも知れませんが、それはいわば、裏には自動車をやっつけようという意図が見られた討論会でした。

当然のことながら大学の工学関係部門には、その部門の責任として、また生涯の研究テーマとして、まじめに自動車工学を研究されていた教授たちがおられました。その方たちは、そのとき自動車撲滅論を受けて立つ立場に立たされてしまいました。そういうことですから、そのシンポジウムに臨むには、ただの口先の議論だけでは勝ち目がありません。そこ

で交通に関するデザインスゴロクを作り、それを武器にして立ち向かおうということになったのでした。その時に作られたデザインスゴロクが、図1です。

2 交通一般の位置付け

図1のデザインスゴロクでは、中心に主題として「陸上交通」が置かれました。そして3つの頂点には交通の3本柱として、面の交通(1)・線の交通(2)・点の交通(3)が配置されたのです。ここで、

面の交通とは 地面上をどこへでも行くことができる交通で、要するに、徒歩で一般道路を歩くという交通です。

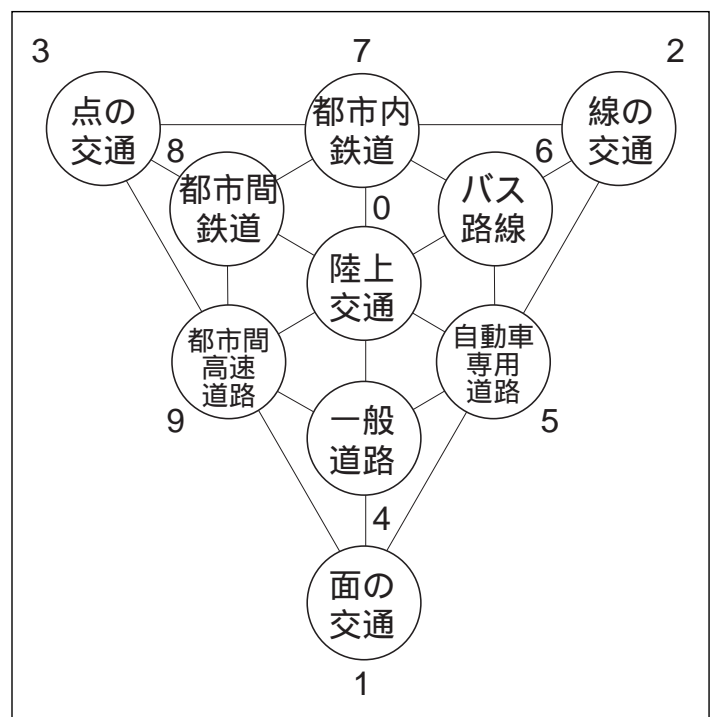


図1 陸上交通システム